

## インフォメーション・リテラシーの育成における学校図書館の活用

広島加奈子

情報化社会を生き抜くために、インフォメーション・リテラシー(以下 IL)の育成が求められている。IL とは、「情報を探索し、評価し、活用する能力」と定義されているが、学校教育においては IL の育成として、学校図書館が挙げられている。IL の育成は、生徒が課題について情報を収集、整理・分析し結果をまとめる調べ学習のような学習において期待される。文部科学省(2017)や鳥取県松江市(2006)はこのような学習を 4~5 の段階で表しており、Kuhlthau(2012)は情報を探索するときのプロセスを示したモデルとして ISP モデル (Information Search Process Model) と Guided Inquiry を示している。このようなモデルの段階を統合すると、「(学校図書館の利用方法や情報探索の方法について) 知る」「課題設定」「情報収集」「情報の整理・分析」「まとめ」「発表・伝え合い」「評価」の 7 つの段階を調べ学習の段階と設定できる。日本における調べ学習の支援チームになりえるメンバーは学校司書、司書教諭、授業者であるが、どのような段階でどのような支援・指導が実施されているのかは明らかになっていない。また、学校図書館の活用要素である「情報・資料」「施設・設備」「学校図書館担当者」は「情報収集」の段階において最も活用されると考えられる。

本研究では、日本の中学校の学校図書館の資源や設備を把握し、調べ学習の「情報の収集」の段階において、どのような支援・指導が行われているか明らかにし、学校図書館を活用して IL を育成するための調べ学習の支援・指導について検討することを目的とした。

事前調査では、学校図書館を活用した調べ学習を行っている中学校を抽出するために「第 21 回図書館を使った調べる学習コンクール」中学生の部の入賞校である中学校 42 校のうち学校司書・司書教諭が在籍する 39 校を対象に、学校司書・司書教諭の人数、学校図書館の活用状況、調べ学習の実施状況などの質問項目を尋ねた。その結果、本調査の対象として 13 校を選出した。

本調査では、事前調査で抽出した中学校を対象に、学校図書館担当者について、学校図書館の設備について、今年度の調べ学習においてどのような段階でどのような支援・指導を実施しているかについて調査し、学校ごとに支援・指導内容に関する事例を分析した。

本調査の結果、「情報の収集」の段階は指導や支援もすべての学校において実施されており、指導・支援の内容には、「調べた情報の抜き出し方」「情報の信頼性」「情報へのアクセス、メディアの特性」「出典・引用など情報の扱い方」などに関する支援・指導が見られた。これらの指導・支援は、学校図書館の活用要素である学校図書館の設備と学校図書館担当者が活用されており、IL を高めるための支援が行われていると考えられる。しかし、「教員との連携不足」「時間不足」「資料不足」「生徒の能力不足」などの課題も挙げられており、教員の理解を得て、調べ学習の実施の機会を増やすことで生徒の IL を高めていく必要がある。また、「知る」段階などにおいても情報収集に関わる指導や支援を実施したりすることで学校図書館が調べ学習に介入できる可能性があると考えられる。

(指導教員 鈴木佳苗)